

[担当教員]

光嶋裕介(光嶋裕介建築設計事務所、神戸大学客員准教授)

竹口健太郎(アルファヴィル一級建築士事務所)

遠藤秀平(教授)

[Teaching Assistant]

伊藤大輝(A65) 小林諒(A65)

■課題主旨

メモリアル空間を(面状の構造により)計画する(面状の構造とは柱や梁による線材の架構ではなく、壁面/床面/屋根面の連続により構造躯体として成立するものを言う)。構造計画に関しては厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石・コンクリート・鉄・ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境(場・空間)に対して身体的な関心と理解を探究すること。個人を象徴する空間を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出する。

■概要

各自が社会的実績を勘案し顕彰に値すると判断する人物を選択、その個人のためのメモリアル空間を設計する。敷地の選定においては、選択の必然性を前提とすること。その他必要空間を設定し理想的な外部環境・ランドスケープを含めてのメモリアル空間を提案すること。延床面積は2000平米程度とする。

■敷地

各自設定。設定した人物にふさわしい敷地を選ぶこと。

■提出物

A1図面3~5枚程度、完成モデル1:100、必要図面は各自設定し、第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

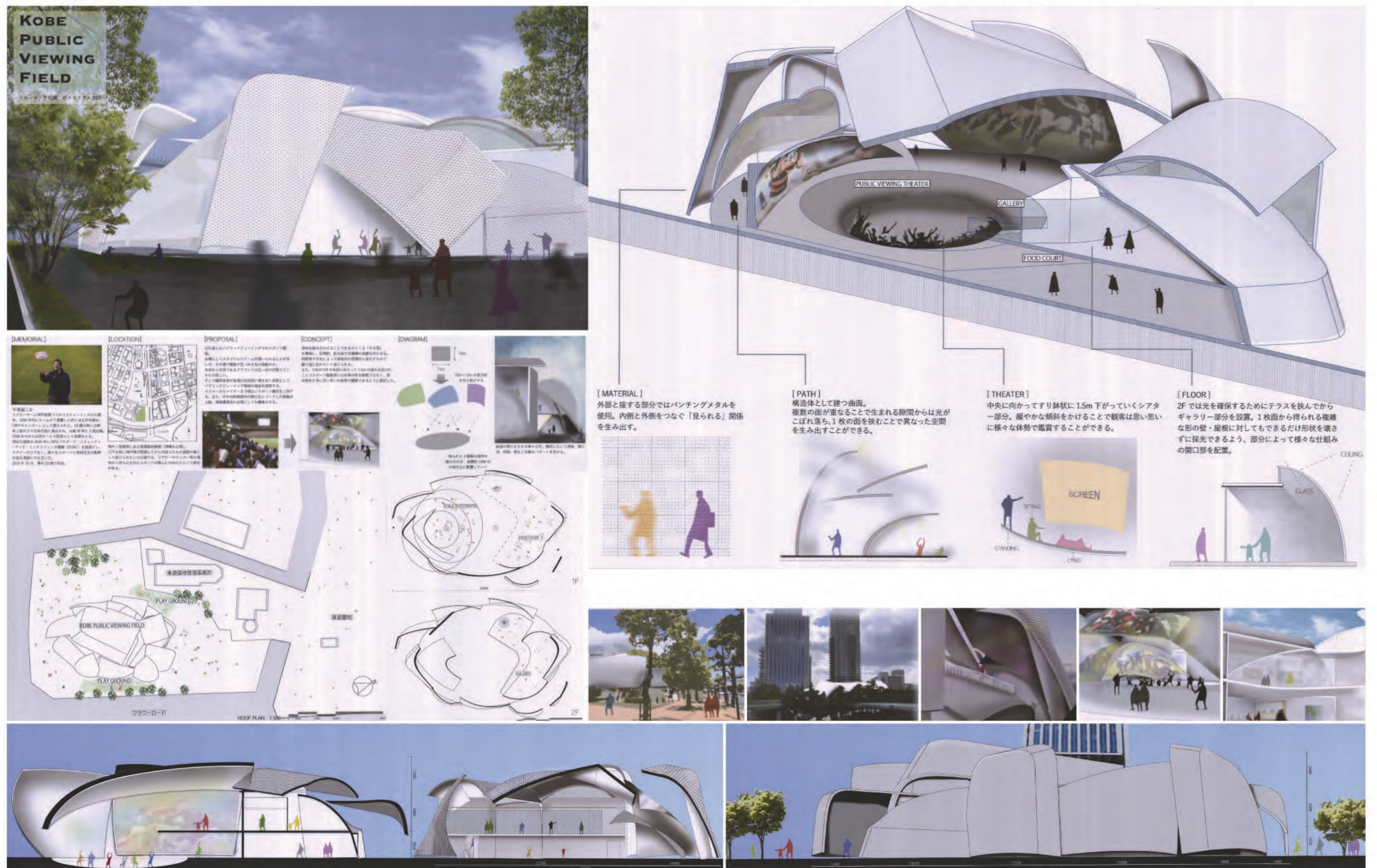
■講評会の様子



KOBE PUBLIC VIEWING FIELD —ラガーマン平尾誠二のメモリアル空間—

大河原瑞仁

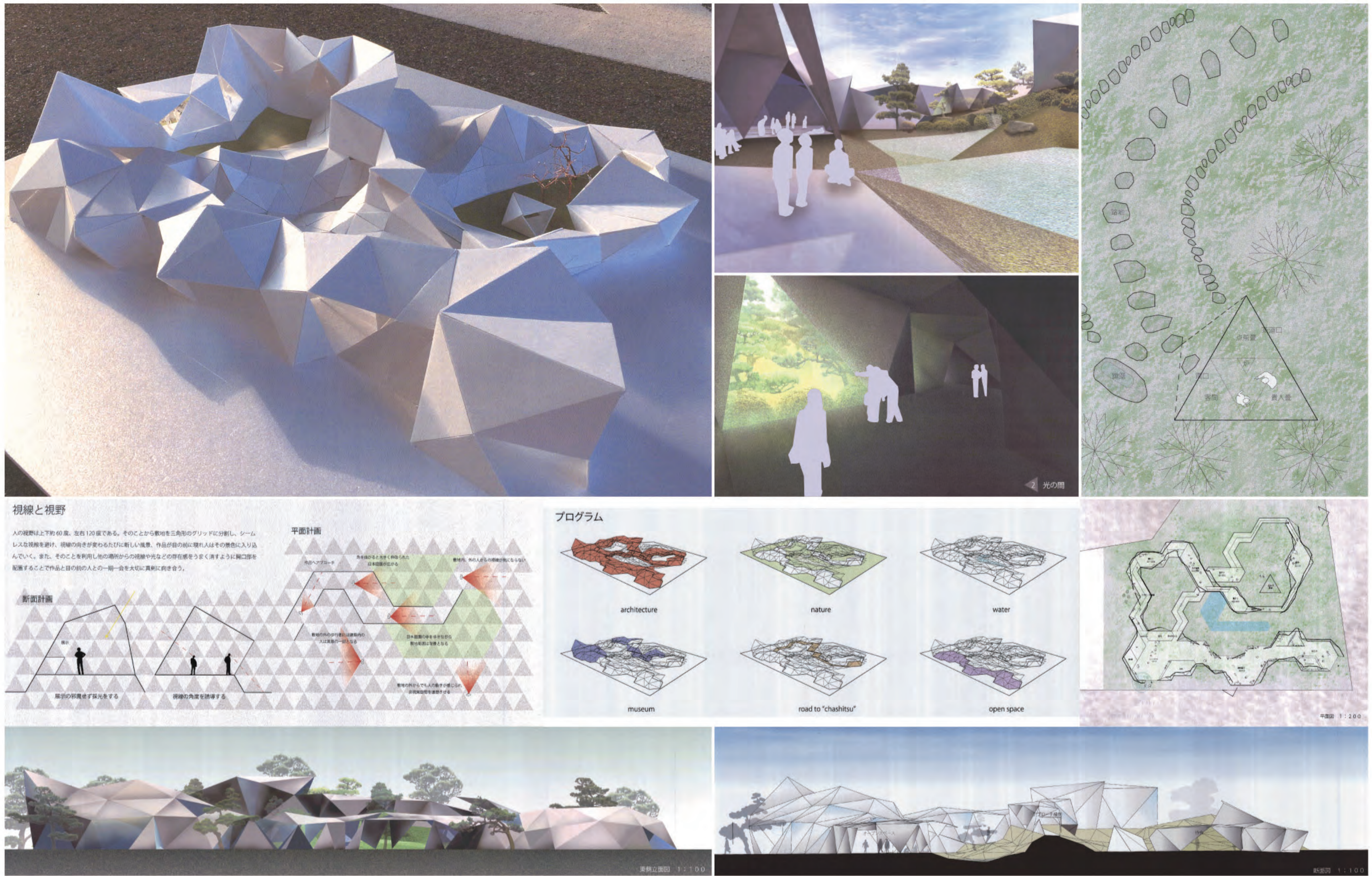
ラグビー W 杯神戸開催に際し、パブリックビューイング施設を計画。競技場での画面観戦とは異なり、空間の中心に観客の身を置く新しいスタイル。ラグビーボールを感じさせる15の曲面部材を用いた建築は、地域スポーツ振興に励んだ平尾誠二へのオマージュ作品。



侘び寂びの美

佐伯健士朗

現在に至るまで日本人が宿すわびさびの精神。その心をわび茶として大成させた千利休のメモリアル空間を 21 世紀の現代に創造する。



SHIMANO Museum

宅野蒼生

サイクリング、釣り文化発展の拠点。既存する木々の間を流れるように立ち上がっていく面の下で、「シマノの歴史」と島野容三氏が目指す「自然との向き合い方」に触れる。シマノの「過去」と「未来」を表現するメモリアル空間。



100年、1000年、その先へ

中島安奈

天才絵師と称された伊藤若冲のための展示空間。その技法を建築に落とし込み光を操作することで、絵とリンクした、絵のための空間が連続する。やがて絵がなくなったとしても、彼の見ていた世界はなおそこに浮かび上がってくる。



メディアステーション

北條太一

映像作家である田中功起のメモリアル空間。筒状の躯体で日常を切り取り、連続して配置することで、非日常である展示空間に日常である生活が感じられる。駅と都市の間となる空間に、生活とメディアアートが入り混じる場を形成した。

